

大学名 京都教育大学

第63号 特集テーマ「学生支援」
特集タイトル「みんなで支えるキャンパスライフ」

表題 新入生全員と学長が語り合う——授業や学生生活を改善する「学長・新入生ミーティング」



学長・新入生ミーティングの様子（2021年度）

京都教育大学は定員300名の小規模な国立大学だが、その小ささを活かし、2001年から20年間、学長が新入生全員と会う「新入生ミーティング」を実施している。ランチタイムまたは放課後に、専攻ごとに1回あたり平均25人の新入生と学長とが語り合う。勉学や生活について率直な感想に耳を傾け、ステークホルダーである新入生に大学側の思いや意図を伝え、理解を図る。

初々しさの残る新入生にとって、大学には不思議なことや嬉しいことが溢れている。「大学からこんなにメールが来るのはなぜ?」「大学の先生は毎日来ないの?」

新型コロナウイルス流行後は、「全面的に対面授業なのが嬉しい」「おかげで、大学で友だちがたくさんできた」と感謝されることも多い。

授業については、1年次から学校現場へ赴く授業「公立学校等訪問演習」で、教員をめざす意識が明確になった、と生き生きと語る学生の姿が頼もしく感じられる。

もちろん要望にも対応する。「ドイツ語技能検定試験を単位認定してほしい」「購買部に電子レンジを増やしてほしい」…。学内に夜間、暗い場所があると指摘されれば、照度を測定する。可能な改善は早急に実現するよう心がけている。

学生にとってアンケートを見ると、学長と直接話すことで、大学運営や教育方針についての信頼が高まることが分かっている。また、大学の特性を新入生が明瞭に意識する契機ともなっている。

実施体制

